

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	岩谷学園アーティスティック B 横浜美容専門学校
設置者名	学校法人 岩谷学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
衛生 専門課程	ビューティースタylist科	夜・通信	1,350 時間	160 時間	
文化・教養 専門課程	トータルビューティー科	夜・通信	1,140 時間	160 時間	
(備考) トータルビューティー科は1年後期よりネイル・メイクコースとエステコースの選択制になります。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校ホームページ (<https://www.artisticb.ac.jp/disclosure/>)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第 2 号の 2－① 【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第 2 号の 2－②を用いること。

学校名	岩谷学園アーティスティック B 横浜美容専門学校
設置者名	学校法人 岩谷学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校事務局に備付け

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	帝京大学冲永総合研究 所 所長	平成 30 年 6 月 16 日～令 和 2 年 6 月 15 日	・新規事業のマー ケティングリサー チ
非常勤	秀徳教育学院 校長	平成 30 年 6 月 16 日～令 和 2 年 6 月 15 日	・海外事業のマー ケティングリサー チ
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	岩谷学園アーティスティック B 横浜美容専門学校
設置者名	学校法人 岩谷学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>			
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 以下の教育システムに基づき授業計画書の作成・見直しを行っている</p>			
<p>①教育方針の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美と健康と癒しをテーマに、感性とロジックを融合させた教育を展開します。 ・アーティスティックでビジネスマインドをもった美容師、ビューティーアドバイザー、ネイリスト、エステティシャンを育成します。 ・職業訓練学校の原点に立ち戻り、就職率を高め同時に就職後の定着率の高い人材育成に努めます。 			
<p>②目指す人材像の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビューティースタylist科（美容師養成コース） 「独立志向を持ち、トータルビューティー技術で顧客満足を提供できる美容師」 ・トータルビューティー科 「ホスピタリティと内面の美しさを兼ね備えた、グローバルなビューティー産業で活躍できる職業人」 			
<p>③教育ストーリーの設定 <ビューティースタylist科></p>			
時期	教育ストーリー	学校で必要とする内容	取得可能資格
1年 前期 (4～9月)	まず、オリエンテーションで本校教育システムの理解を深め、2年間の各自の目標を明確にします。職業人としての意識を自然に高めることを目指すビジネス実践教育に基づき、学校内でもサロン勤務と同等の意識を持ち、来客者への笑顔での挨拶や、学内の整理整頓など、ホスピタリティーマインドの習得と維持を学びます。さらに、美容業を営むために必要な容の基礎理論から専門技術までを習得。日本と西洋のヘアー・ファッションの歴史を学びながら、色彩学と造形基礎を体系的に学び、自己の美的感性を磨きます。	①オリエンテーション ②コンプラット研修 ③DANKS ヘアショー ④きくやプライマリーセッション ⑤芸術鑑賞会 ⑥学生技術大会 ⑦学園祭	

時期	教育ストーリー	学校で必要とする内容	取得可能資格
1 年 後期 (10～3 月)	お客様に安心していただける安全な美容業を行うために、衛生学全般を学習。また、ビジネス実践授業では、1 年間の総括としてサロン体験（インターンシップ）に参加。現場での実践的な業務と学校での学習成果を関連させることで、自己の将来目標を更に明確化させ、2 年目の就職活動・資格取得につなげていきます。また、希望者を対象としたヨーロッパ研修旅行で、美的感性を磨き、更に見聞を広げます。	①科の交流会 ②ホスピタリティ研修 ③ヘッドスパ講習（高度） ④刃物工学（高度） ⑤海外研修 ⑥インターンシップ ⑦就職面接練習 ⑧校内企業セミナー ⑨新 2 年生研修	①ビジネス能力検定ジョブパス 3 級 ②ヘッドスパ検定 ③色彩活用パーソナルカラー検定 3 級
2 年 前期 (4～9 月)	進級前に実施する「新 2 年生ガイダンス」を通じて、授業内容と教育目標を再確認。資格取得に向けた実技課題と学科を本格的に学ぶ計画を立て、それぞれが有意義な 1 年間を過ごせるよう取り組みます。また、キャリアセンターの支援を受けながら企業説明会や就職試験に積極的に足を運び、未来のキャリアをつくる就職活動をより充実させていきます。また、1 年次からの教育成果を発揮するべく、対外的なコンテストへの挑戦も積極的行います。これまで学んできた学習の集大成としてクラス全員の協力のもと企画、運営をおこない、広く対外に向けたヘアショーを成功させます。	①カラー講習（高度） ②エステ特別授業（高度） ③DANKS ヘアショー ④きくやプライマリーセッション ⑤来客実習 ⑤芸術鑑賞会 ⑥学生技術大会 ⑦作品発表会 ⑧フォトコンテスト	
2 年 後期 (10～3 月)	2 年生の後期は、それぞれの就職先を決定し、美容師国家資格を取得するための最終仕上げです。受験対策授業に取り組み、卒業直前までクラス一丸となって合格率 100%を目指して取り組みます。その後は、卒業式まで気を緩めることなく、職業人として必要とされる資質を磨き、業界で必要とされる理想の人財として社会へと出て行きます。	①国家試験受験対策 ②新日本髪授業（高度） ③ヘアアレンジ授業（高度） ④ブライダル展示授業	①美容師国家試験

<トータルビューティー科>			
時期	教育ストーリー	学校で必要とする内容	取得可能資格
1 年 前期 (4～9 月)	<p>2 年間の自己目標を定め、ホスピタリティを高めながら多岐にわたる学びを習得</p> <p>①美の基礎を学ぶ人材教育（美容衛生学・皮膚生理学・着付け）</p> <p>②プロによる企業と連携した特別授業（スパ体験実習、メイク展示授業）</p> <p>③他科・他学年との交流（コミュニケーション強化）</p> <p>④創造性の養成（芸術鑑賞会）</p>	<p>①オリエンテーション</p> <p>②ビューティーフワードジャパン見学</p> <p>③スパ研修</p> <p>④芸術鑑賞</p> <p>⑤学園祭</p>	<p>① ネイリスト技能検定 3 級</p> <p>② iab 着付け認定</p> <p>③ 美肌検定</p> <p>④ iab メイクアップ検定 3 級</p>
1 年 後期 (10～3 月)	<p>希望の専攻に分かれ、より専門的なスキルを習得。学生サロンで即戦力としての意識と実力を高める</p> <p>①外部活動への積極的参加（各種コンテスト参加・高齢者施設訪問・系列保育園イベント参加）</p> <p>②早期独立開業を視野に入れた専門的授業（ビジネス実践、ショップワーキング、インターンシップ）</p> <p>③自己の強みを発見（キャリアセンターとダブル就職サポート、面接練習、面談により自分の目標を再認識）</p> <p>④プロの世界観に触れて創造性の養成（各種コンテスト見学、ヘアショー見学）</p>	<p>①科の交流会</p> <p>②エステコンテスト</p> <p>③ネイルエキスポ</p> <p>④職業人講話</p> <p>⑤ボランティア活動</p> <p>⑥海外技術研修</p> <p>⑦就職面接練習</p> <p>⑧インターンシップ</p>	<p>① ネイリスト技能検定 2 級</p> <p>② ビジネス能力検定ジョブパス 3 級</p> <p>③ ジェルネイル技能検定 初級</p> <p>④ 色彩活用 パーソナルカラー検定 3 級</p> <p>⑤ フェリーチェ検定</p>
2 年 前期 (4～9 月)	<p>企業セミナー等を通じて、時代の変化に対応して活躍できるプロを目指し、スキル・接客力・サロン運営力を身につける</p> <p>①より特化した授業で目標の再確認ができる</p> <p>②各種検定の上級資格取得を目指す。（ネイリスト技能検定 2・1 級、ジェルネイル技能検定中級・認定エステティシャンなど）</p> <p>③応用技術の習得（ショップ実習・実践学習・美容ライト脱毛など）</p> <p>④就職先内定により更なる今後の自己目標を明確化</p> <p>⑤作品発表会の企画運営（オリジナリティとチームワークの追及）</p>	<p>①ビューティーフワードジャパン見学</p> <p>②企業セミナー</p> <p>③芸術鑑賞会</p> <p>④作品発表・学園祭</p>	<p>① ネイリスト技能検定 2・1 級</p> <p>② 認定エステティシャン試験</p> <p>③ ジェルネイル技能検定 中級</p> <p>④ iab メイクアップ検定 2 級</p>

時期	教育ストーリー	学校で必要とする内容	取得可能資格
2年 後期 (10～3月)	就職活動と受験対策で学びを最大限に発揮できる。作品発表会で得た成功体験を胸に実社会へ。 ①資格取得対策授業（チャンスを最大限に活用し、最後まであきらめない授業内容） ②独立開業を意識したサロンワークにおける技術・知識の向上（ショップ実習・実践学習・美容ライト脱毛など） ③職業人としての資質磨き（フェリーチェでは指名をもらえるようになり、接客本来の喜びを習得）	①ネイルエキスポ ②フェリーチェ業務の引継ぎ ③エステ実習卒業論文プレゼン	①ネイリスト技能検定1級 ②化粧品検定2級 ③認定上級エステティシャン試験 ④ジェルネイル技能検定上級 ⑤iabメイクアップ検定1級

④パフォーマンスアセスメント評価の実施

専門的な知識や技能を高めると共に職業人として必要な資質を豊かにすることを目的として2年間をかけて人間性豊かな職業人となることを目的にする。評価表は授業科目を横軸に縦軸には下記の内容とし、関連性が深い学びを学生は理解を深めながら通常の定期試験では評価できない側面を自己点検自己評価し教職員のサポートも加え学生の成長に繋げる。

PA表（パフォーマンスアセスメント）達成度確認

セルフマネジメント	(1) 健康管理ができる(体調管理ができる。メンタルヘルス。三食食べる。睡眠。元気に授業が受けられる)。
	(2) 身の周りの整理整頓ができる。
	(3) 多様な考えを持った人たちと交流することができる。
	(4) 遵法意識やモラルを持つことができる。
	(5) キャリアプランを描くことができ、自律して物事を考えることができる。
	(6) アーティスティックな感性を育てることができる。
	(7) 自己啓発ができる。
	(8) 描いたキャリアプランを実行することができる。
マインド	(1) 素直に取り組むことができ、プラス思考に考えることができる。
	(2) 感謝の気持ちを表すことができ、反省し向上することができる。
	(3) 決意を継続することができる。
	(4) 平和な社会を創ることに貢献する意識をもつことができる。

ビジネススキル	(1) 時間管理ができる。(遅刻・スケジュールリング・納期意識)
	(2) 挨拶ができる。
	(3) 協力・協調することができる。
	(4) 報告・連絡・相談ができる。
	(5) 正しい言葉遣い・表現ができる。(敬語)
	(6) 問題形成ができる。
	(7) 問題解決の努力ができる。
	(8) 常に状況判断をしながら、適切に行動することができる。 (気配り)
	(9) 指示を正確に聞きとることができる。(理解・判断)
	(10) 目標管理意識を持っている。(目標たてることができる・ P D C Aを回転させることができる)
	(11) 自分の専門等に対しての情報収集をすることができる。
	(12) アーティスティックな感性を論理的に説明できる。
<p>⑤定期試験の実施 1年次の前期・後期と2年次の前期・後期に4回実施</p> <p>⑥授業アンケートの実施 授業科目を担当する教員・講師に対する授業アンケートを年2回実施し、改善点については年2回の講師会等で検討し改善に努める。</p> <p>⑦授業カリキュラムの設定 学則にて設置</p> <p>⑧シラバスの作成 カリキュラムを担当する教員・講師が授業開始前までに作成し、授業開始時には学生に授業計画や評価方法について説明をする。</p> <p>⑨ポートフォリオの作成 学習成果に関する記録を学生自身でまとめ、2年間の学びを再確認できる資料とする。 ※以上の教育システムは年1回見直しを実施。 ※⑦授業カリキュラムは学則に準ずる。</p>	
授業計画書の公表方法	学校事務局に備付け

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

① 年2回講師会の設置

シラバス作成に関する依頼及び評価方法に関する確認

② 年2回（前期・後期）定期試験実施

ただし、実技試験に関しては複数回の実技試験の実施をし、その平均点を前期・後期の評価とする。

③ 進級・卒業判定会議を年1回実施

学則で定める履修時間及び成績評価を本校の判定会議基準に準じて決定する。卒業についての成績評価は2年間の成績評価（学科平均＋実技平均＝成績評価）とする。※優秀な学生には学校の表彰規定に準じて表彰する。

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価の基準は、科目ごとの目標レベルの達成度で、この達成度に応じて「秀」「優」「良」「可」「不可」の5段階で評価する。

進級・卒業に必要な授業時間を履修し通常の到達度なら「優」が得られ「可」以上の評価を得られれば科目の単位取得となる。

試験点数	成績評価	変換ポイント
100～90 点	秀	4
89～80 点	優	3
79～70 点	良	2
69～60 点	可	1
59 点以下	不可	0

※学生個人の相対的な位置づけを把握するための指標の算出方法

成績評価を点数化し、各学生の履修科目の合計平均を算出する。

客観的な指標の算出方法の公表方法	学校事務局に備付け
------------------	-----------

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校の進級・卒業判定規程に従って判断する。

第1条 進級・卒業の判定基準は以下とおりとする。

本規定は学則第17条に基づき、進級・卒業に必要な成績の評価認定について定める。附則（学則別表1及び第23条付帯教育関係資料）

2 上記の1に該当する者は卒業・進級会議により最終決定する。

第2条 第1条の基準を満たさない者は、原級留め置き（留年）または卒業保留となる。

第3条 進級・卒業に必要な授業時間及び成績を認定させていても、学費に未納がある場合は進級・卒業は認定されない。

第4条 卒業年度の3月31日を超えて、単位未修得による卒業保留の場合、その後の在籍期間は入学年度より4年間を超えることはできない。

第5条 通常の評価基準は内規の成績評価認定規程に準ずる。

2 各科目の担当教員は定期試験を実施し、その結果と平常の学習成績等を総合的に判定して成績を評価する。

3 各科目の担当教員は、作品制作等の提出課題の評価をもって、定期試験実施に代えることができる。

4 各科目について出席率が80%に満たない学生には、当該科目の成績を認定することはできない。

5 進級・卒業に必要な時間に満たない学生に対しては、不足時間の補講を行なうことができる。

6 各科目の成績不良の学生に対して、再試験を実施することができる。再試験の成績評価は「可」とする。

【通常成績評価基準】

BS：ビューティースタylist科（美容師養成）

TB：トータルビューティー科

出席率	試験点数	成績評価	合否	進級判定	卒業判定
80%以上	100～90点	秀	合格	<BS> 950時間 <TB> 840時間	<BS> 2,010時間 <TB> 1,710時間
	89～80点	優			
	79～70点	良			
	69～60点	可			
	59点以下	不可	不合格		

第6条 褒章の判定基準は以下とおりとする。

本規程は学則第18条に基づき、成績優秀について、他の模範となる者には、これを褒章することができる。なお選考方法は表彰規程に準ずる。

- | | | | |
|----------|---------|--------|----------|
| 1. 理事長表彰 | 2. 校長表彰 | 3. 優秀賞 | 4. 技術賞 |
| 5. 精励賞 | 6. 皆勤賞 | 7. 精勤賞 | 8. 外部表彰等 |

卒業の認定に関する
方針の公表方法

学校事務局に備付け

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	岩谷学園アーティスティック B 横浜美容専門学校
設置者名	学校法人岩谷学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校事務局に備付け
収支計算書又は損益計算書	学校事務局に備付け
財産目録	学校事務局に備付け
事業報告書	学校事務局に備付け
監事による監査報告（書）	学校事務局に備付け

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
衛生		専門		ビューティースタイル リスト科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	2,010 時間		510 時間	210 時間	1,290 時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位	
				2,010 時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数		専任教員数		兼任教員数		総教員数
80 人		58 人	0 人		3 人		5 人		8 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）									
（概要）									
【教育課程及び授業時数】									
課程名	衛生専門課程								
学科名	ビューティースタイル科								
昼夜の別	昼間部								
1 年次科目名	必 選 の 別	授 業 時 数	2 年次科目名	必 選 の 別	授 業 時 数	授 業 時 間 合 計	単 位 数	美容師養成 施設 科目名	必 選 の 別
関係法規・制度 Ⅰ	必	20	関係法規・制 度Ⅱ	必	10	30	1	関係法規・ 制度	必
衛生管理Ⅰ	必	20	衛生管理Ⅲ	必	30	90	3	衛生管理	必
衛生管理Ⅱ	必	30	衛生管理Ⅳ	必	10				
保健Ⅰ	必	20	保健Ⅲ	必	30	90	3	保健	必
保健Ⅱ	必	30	保健Ⅳ	必	10				
香粧品化学Ⅰ	必	40	香粧品化学Ⅱ	必	20	60	2	香粧品化学	必
文化論Ⅰ	必	40	文化論Ⅱ	必	20	60	2	文化論	必
運営管理Ⅰ	必	20	運営管理Ⅱ	必	10	30	1	運営管理	必
美容技術理論Ⅰ	必	60	美容技術理論 Ⅲ	必	30	150	5	美容技術理 論	必
美容技術理論Ⅱ	必	30	美容技術理論 Ⅳ	必	30				

美容実習Ⅰ	必	200	美容実習Ⅲ	必	140	900	30	美容実習	必
美容実習Ⅱ	必	190	美容実習Ⅳ	必	370				
芸術Ⅰ	選	30				60	2	芸術	選
芸術Ⅱ	選	30							
ビジネス実践Ⅰ	選	30	ビジネス実践Ⅲ	選	30	90	3	ビジネス実践	選
ビジネス実践Ⅱ	選	30							
高度美容技術Ⅰ	選	30	高度美容技術Ⅲ	選	140	300	10	高度美容技術	選
高度美容技術Ⅱ	選	40	高度美容技術Ⅳ	選	90				
美容総合運営Ⅰ	選	30	美容総合運営Ⅲ	選	30	120	4	美容総合運営	選
美容総合運営Ⅱ	選	30	美容総合運営Ⅳ	選	30				
			情報技術	選	30	30	1	情報技術	選
必修科目授業時数合計		700	必修科目授業時数合計		710	1,410	47		
選択科目授業時数合計		250	選択科目授業時数合計		350	600	20		
授業時数合計		950	授業時数合計		1,060	2,010	67		
進級に必要な授業時間数		950	卒業に必要な総授業時数		2,010				

※科目評価は、科目ごとに実施するが、単位認定は、一連の科目（Ⅰ・Ⅱ、Ⅰ～Ⅲ、Ⅰ～Ⅳ）の成績評価（可上）がなされたときに付与する。

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価の基準は、科目ごとの目標レベルの達成度で、この達成度に応じて「秀」「優」「良」「可」「不可」の５段階で評価する。
進級卒業に必要な授業時間を履修し通常の到達度なら「優」が得られ「可」以上の評価を得られれば科目の単位取得となる。

試験点数	成績評価	変換ポイント
100～90 点	秀	4
89～80 点	優	3
79～70 点	良	2
69～60 点	可	1
59 点以下	不可	0

※学生個人の相対的な位置づけを把握するための指標の算出方法
成績評価を点数化し、各学生の履修科目の合計平均を算出する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

本校の進級・卒業判定規程に従って判断する。

第１条 進級・卒業の判定基準は以下とおりとする。

本規定は学則第１７条に基づき、進級・卒業に必要な成績の評価認定について定める。附則（学則別表１及び第２３条付帯教育関係資料）

２ 上記の１に該当する者は卒業・進級会議により最終決定する。

第２条 第１条の基準を満たさない者は、原級留め置き（留年）または卒業保留となる。

第３条 進級・卒業に必要な授業時間及び成績を認定させていても、学費に未納がある場合は進級・卒業は認定されない。

第４条 卒業年度の３月３１日を超えて、単位未修得による卒業保留の場合、その後の在籍期間は入学年度より４年間を超えることはできない。

第５条 通常の評価基準は内規の成績評価認定規程に準ずる。

- 2 各科目の担当教員は定期試験を実施し、その結果と平常の学習成績等を総合的に判定して成績を評価する。
- 3 各科目の担当教員は、作品制作等の提出課題の評価をもって、定期試験実施に代えることができる。
- 4 各科目について出席率が 80%に満たない生徒には、当該科目の成績を認定することはできない。
- 5 進級・卒業に必要な時間に満たない生徒に対しては、不足時間の補講を行なうことができる。
- 6 各科目の成績不良の生徒に対して、再試験を実施することができる。再試験の成績評価は「可」とする。

【通常成績評価基準】

BS：ビューティースタylist（美容師養成）

出席率	試験点数	成績評価	合否	進級判定	卒業判定
80%以上	100～90 点	秀	合格	BS 950 時間以上	BS 2,010 時間以上
	89～80 点	優			
	79～70 点	良			
	69～60 点	可			
	59 点以下	不可	不合格		

第 6 条 褒章の判定基準は以下とおりとする。

本規程は学則第 18 条に基づき、成績優秀について、他の模範となる者には、これを褒章することができる。なお選考方法は表彰規程に準ずる。

- | | | | |
|----------|---------|--------|----------|
| 1. 理事長表彰 | 2. 校長表彰 | 3. 優秀賞 | 4. 技術賞 |
| 4. 精励賞 | 5. 皆勤賞 | 6. 精勤賞 | 7. 外部表彰等 |

学修支援等

（概要）

学費サポート（学費軽減プラン）

1. 岩谷学園特待生制度 2. 指定校推薦入学、特別推薦入学 3. A0 入学 4. 高校卒業者の高校卒・社会人自己推薦入学 5. 家族入学制度

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
34 人 (100%)	0 人 (0%)	32 人 (94.1%)	2 人 (5.9%)

（主な就職、業界等）

美容室、ブライダルサロン、化粧品企業、まつ毛エクステンションサロン、商材販売店等

（就職指導内容）

エントリーシートの書き方、求人票の見方、面接指導、年金・社会保険・税金全般指導、企業サロン説明会の紹介及びアドバイス

（主な学修成果（資格・検定等））

美容師免許、公益財団法人 JENC ネイリスト技能検定試験 3 級、NPO 法人 JNA ジェルネイル技能検定初級、日本エステティック協会美肌検定、日本化粧品検定 3 級、ビジネス能

力検定 3 級
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
57 人	1 人	1.8 %
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
1、学生別に教育カルテを作成し担任は指導に関する事柄を適宜記入し他の教員にも情報共有する。		
2、毎日、欠席や遅刻に関する連絡が学校に無いときには担任が自宅へ連絡を入れて確認する。		
3、欠席日数や遅刻回数が多くなっている学生の保護者には連絡を入れ学校にて 3 者面談を実施する。		
4、産業カウンセラーの教員を配置する。		
5、年 2 回以上の個別面談を実施する。		
6、月 1 回教育会議を開催。学生の出席や学業の状況を各科で管理職を含めて会議を行う。		
7、授業料や教材の納入が困難な家庭は分納や延納と可能な範囲で対応する。		
8、欠席等で学習習得の遅れがあると判断すれば可能な限り補講補修を実施する。 ※補修に関しては一部有料とする。		
9、年 2 回学生に対して授業アンケートを実施。学生が授業に満足しているのか確認		
10、教員による自己点検自己評価により学校の運営で問題がないか確認する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門	トータルビューティ ー科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,710 時間	350 単位時間	150 単位時間	1,200 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1,700 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		61 人	1 人	2 人	8 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）					
（概要）					
【教育課程及び授業時数】					
課 程 名		文化・教養専門課程		授業時 数合計	単位数
学科名（学年）		トータルビューティー科 1 学年			
期 間		年間	週間		

昼夜の別	昼		昼			
科目名	必選 の別	授業 時数	必選 の別	授業 時数		
皮膚生理学Ⅰ	必	30	必	2	30	1
衛生学	必	30	必	2	30	1
香粧品化学	必	30	必	2	30	1
栄養学と運動Ⅰ	必	30	必	2	30	1
メイク実習Ⅰ	必	60	必	4	60	2
ネイル実習Ⅰ	必	90	必	6	90	3
エステ実習Ⅰ	必	120	必	8	120	4
着付け実習	必	30	必	2	30	1
美容総合実習Ⅰ	必	60	必	4	60	2
美容総合実習Ⅱ	必	30	必	2	30	1
ビジネス実践Ⅰ	必	30	必	2	30	1
ビジネス実践Ⅱ	必	30	必	2	30	1
芸術Ⅰ	必	30	必	2	30	1
芸術Ⅱ	必	30	必	2	30	1
ショップワーキング	必	30	必	2	30	1
メイク実習Ⅱ	必選	90	必選	6	90	3
ネイル実習Ⅱ	必選	90	必選	6	90	3
エステ実習Ⅱ	必選	180	必選	12	180	6
必修科目授業時数合計		660			660	22
必修選択科目授業時数合計		180			180	6
授業時数合計		840			840	
進級に必要な授業時数		840			840	28

※選択必修科目については、メイク実習Ⅱとネイル実習Ⅱ、またはエステ実習Ⅱのどちらかを履修すること。

課 程 名	文化・教養専門課程				授業時 数合計	単位数
学科名（学年）	トータルビューティー科 2 学年					
期 間	年間		週間			
昼夜の別	昼		昼			
科目名	必選 の別	授業 時数	必選 の別	授業 時数		
皮膚生理学Ⅱ	必	30	必	2	30	1
栄養学と運動Ⅱ	必	30	必	2	30	1
トータル美容理論Ⅰ	必	30	必	2	30	1
トータル美容理論Ⅱ	必	30	必	2	30	1
美容総合実習Ⅲ	必	30	必	2	30	1
美容総合実習Ⅳ	必	30	必	2	30	1
ビジネス実践Ⅲ	必	30	必	2	30	1
芸術Ⅲ	必	30	必	2	30	1
ショップ実習Ⅰ	必	30	必	2	30	1

シヨップ実習Ⅱ	必	30	必	2	30	1
メイク実習Ⅲ	必選	120	必選	8	120	4
メイク実習Ⅳ	必選	120	必選	8	120	4
ネイル実習Ⅲ	必選	150	必選	10	150	5
ネイル実習Ⅳ	必選	180	必選	12	180	6
エステ実習Ⅲ	必選	270	必選	18	270	9
エステ実習Ⅳ	必選	300	必選	20	300	10
必修科目授業時数合計		300			300	10
必修選択科目授業時数合計		570			570	19
授業時数合計		870			870	
卒業に必要な総授業時数		1710			1710	57

※メイク実習Ⅲ・Ⅳ及びネイル実習Ⅲ・Ⅳは、１年次にメイク実習Ⅱ・ネイル実習Ⅱを履修したものが履修するものとする。

※エステ実習Ⅲ・Ⅳは、１年次にエステ実習Ⅱを履修したものが履修するものとする。

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価の基準は、科目ごとの目標レベルの達成度で、この達成度に応じて「秀」「優」「良」「可」「不可」の５段階で評価する。

進級卒業に必要な授業時間を履修し通常の到達度なら「優」が得られ「可」以上の評価を得られれば科目の単位取得となる。

試験点数	成績評価	変換ポイント
100～90 点	秀	4
89～80 点	優	3
79～70 点	良	2
69～60 点	可	1
59 点以下	不可	0

※学生個人の相対的な位置づけを把握するための指標の算出方法

成績評価を点数化し、各学生の履修科目の合計平均を算出する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

本校の進級・卒業判定規程に従って判断する。

第１条 進級・卒業の判定基準は以下とおりとする。

本規定は学則第１７条に基づき、進級・卒業に必要な成績の評価認定について定める。附則（学則別表１及び第２３条付帯教育関係資料）

２ 上記の１に該当する者は卒業・進級会議により最終決定する。

第２条 第１条の基準を満たさない者は、原級留め置き（留年）または卒業保留となる。

第３条 進級・卒業に必要な授業時間及び成績を認定させていても、学費に未納がある場合は進級・卒業は認定されない。

第４条 卒業年度の３月３１日を超えて、単位未修得による卒業保留の場合、その後の在籍期間は入学年度より４年間を超えることはできない。

第５条 通常の評価基準は内規の成績評価認定規程に準ずる。

２ 各科目の担当教員は定期試験を実施し、その結果と平常の学習成績等を総合的に

判定して成績を評価する。

3 各科目の担当教員は、作品制作等の提出課題の評価をもって、定期試験実施に代えることができる。

4 各科目について出席率が 80%に満たない生徒には、当該科目の成績を認定することはできない。

5 進級・卒業に必要な時間に満たない生徒に対しては、不足時間の補講を行なうことができる。

6 各科目の成績不良の生徒に対して、再試験を実施することができる。再試験の成績評価は「可」とする。

【通常成績評価基準】

TB：トータルビューティー科

出席率	試験点数	成績評価	合否	進級判定	卒業判定
80%以上	100～90 点	秀	合格	TB 840 時間以上	TB 1,710 時間以上
	89～80 点	優			
	79～70 点	良			
	69～60 点	可			
	59 点以下	不可	不合格		

第 6 条 褒章の判定基準は以下とおりとする。

本規程は学則第 18 条に基づき、成績優秀について、他の模範となる者には、これを褒章することができる。なお選考方法は表彰規程に準ずる。

- | | | | |
|----------|---------|--------|----------|
| 1. 理事長表彰 | 2. 校長表彰 | 3. 優秀賞 | 4. 技術賞 |
| 4. 精励賞 | 5. 皆勤賞 | 6. 精勤賞 | 7. 外部表彰等 |

学修支援等

(概要)

学費サポート (学費軽減プラン)

1. 岩谷学園特待生制度 2. 指定校推薦入学、特別推薦入学 3. AO 入学 4. 高校卒業者の高校卒・社会人自己推薦入学 5. 家族入学制度

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
27 人 (100%)	0 人 (%)	25 人 (92.6%)	2 人 (7.4%)

(主な就職、業界等)

エステティックサロン、ネイルサロン、ブライダルサロン、化粧品企業、ホテル、商材販売店、百貨店等

(就職指導内容)

エントリーシートの書き方、求人票の見方、面接指導、年金・社会保険・税金全般指導、企業サロン説明会の紹介及びアドバイス

(主な学修成果 (資格・検定等))

公益財団法人 JENC ネイリスト技能検定試験 1 級、NPO 法人 JNA ジェルネイル技能検定上級、日本エステティック協会 1000 時間コースエステ認定資格、日本化粧品検定 3 級、ビジネス能力検定 3 級

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
74 人	14 人	18.9 %
(中途退学の主な理由) 進路変更、家庭内の都合、学費の問題		
(中退防止・中退者支援のための取組) 1、学生別に教育カルテを作成し担任は指導に関する事柄を適宜記入し他の教員にも情報共有する。 2、毎日、欠席や遅刻に関する連絡が学校に無いときには担任が自宅へ連絡を入れて確認する。 3、欠席日数や遅刻回数が多くなっている学生の保護者には連絡を入れ学校にて3者面談を実施する。 4、産業カウンセラーの教員を配置する。 5、年2回以上の個別面談を実施する。 6、月1回教育会議を開催。学生の出席や学業の状況を各科で管理職を含めて会議を行う。 7、授業料や教材の納入が困難な家庭は分納や延納と可能な範囲で対応する。 8、欠席等で学習習得の遅れがあると判断すれば可能な限り補講補修を実施する。 ※補修に関しては一部有料とする。 9、年2回学生に対して授業アンケートを実施。学生が授業に満足しているのか確認する。必要に応じて改善計画を作成し実施する。 10、教員による自己点検自己評価により学校の運営で問題がないか確認する。		

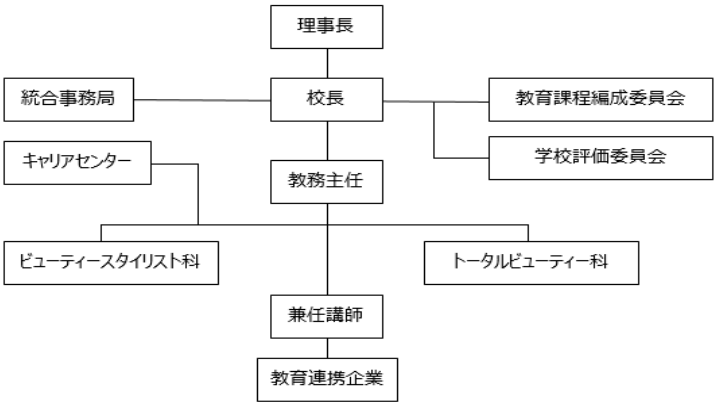
②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
ビューティースタイリスト科	100,000 円	600,000 円	742,000 円	施設設備費および教材費
トータルビューティーク	100,000 円	600,000 円	632,000 円	施設設備費および教材費
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法													
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.iwatani.ac.jp/evaluation/													
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）													
<p>方針</p> <p>教育の質を担保するためにも、教育等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。また、第三者については、産業界等の関与を十分に担保しつつ、新たな枠組みに適した基準・方法等を構築する。評価の観点は、教育活動を行う上での組織運営のシステム・体制の妥当性や、目的に応じた教育の成果（就職状況）等、職業教育に適したものとする。</p> <p>実施方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学生対象の授業アンケートの実施（年2回） ② 学校教育編成委員会の設置（年2回以上開催） ③ 学校職員対象の自己点検自己評価の実施（年1回） ④ 学校評価委員会の設置（年1回開催） ⑤ ホームページ情報公開（年1回） <p>※学校評価委員会には関係業界会の方及び卒業生や地域住民が参加、教育課程編成委員は業界関係者が参加し運営する。</p> <p>主な評価項目</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 教育理念・目標</td><td>(6) 教育環境</td></tr> <tr> <td>(2) 学校運営</td><td>(7) 学生の受け入れ募集</td></tr> <tr> <td>(3) 教育活動</td><td>(8) 財務</td></tr> <tr> <td>(4) 学修成果</td><td>(9) 法令等の遵守</td></tr> <tr> <td>(5) 学生支援</td><td>(10) 社会貢献・地域貢献</td></tr> <tr> <td></td><td>(11) 国際交流</td></tr> </table> <p>評価結果の活用方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教育システム及び授業アンケート項目の見直しと改善 <ul style="list-style-type: none"> ・教育システムは教育課程編成委員会及び学校評価委員会を受け教職員は4月から翌年の2月末までに確認及び必要に応じて改善に努める。 ・授業アンケートは教育課程編成委員会及び学校評価委員会を受け翌年の教職員会議にて毎年7月末までに確認及び必要に応じて改善に努める。 ② 学生生活指導の見直し及び教員研修の計画と実施 <ul style="list-style-type: none"> ・各科ごとに月1回実施する教務会議と教育課程編成委員会及び学校評価委員会を受けて常勤教員は学生指導に関わる自己啓発研修を毎年校長面接後4月末までに年間計画を立案し翌年の3月までに各自実施するように努める。 ③ 各教科における授業方法の見直し及び教員研修の計画と実施 <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートを前期・後期と年2回実施しその後に常勤職員は校長面談後に必要に応じて授業進行改善計画及び臨時研修会等の実施。また非常勤講師は前期・後期2回の講師会にて各講師に報告し必要に応じて改善を促す。 ④ 自己点検自己評価項目の見直しと改善 <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成委員会及び学校評価委員会を受けて新年度に向けた教職員会議を通して4月末までに評価項目の確認及び必要に応じて改善に努める。 ⑤ 学校教育環境の見直し及び改善 <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成委員会及び学校評価委員会を受けより良い教育環境を目指した新年度の事業計画を長期的な事業計画も視野に入れて毎年12月までに作成する。（設備の修繕及び備品購入を学内の財務状況を鑑み校長及び教務主任が計画し改善に努める） 		(1) 教育理念・目標	(6) 教育環境	(2) 学校運営	(7) 学生の受け入れ募集	(3) 教育活動	(8) 財務	(4) 学修成果	(9) 法令等の遵守	(5) 学生支援	(10) 社会貢献・地域貢献		(11) 国際交流
(1) 教育理念・目標	(6) 教育環境												
(2) 学校運営	(7) 学生の受け入れ募集												
(3) 教育活動	(8) 財務												
(4) 学修成果	(9) 法令等の遵守												
(5) 学生支援	(10) 社会貢献・地域貢献												
	(11) 国際交流												

組織		
		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
有限会社プライド 代表取締役 岩田直樹	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	関係業界企業
有限会社サロンドボーテグレース 代表取締役 松浦功明	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	関係業界企業
株式会社ラ・ボーテ・アクアボン 代表取締役 森本 チヅ子	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	関係業界企業
株式会社ケンジ 斉藤 愛美	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	卒業生
ヘレナ ルビンスタイン 我妻 紗彩香	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	卒業生
株式会社 田中屋 代表取締役 鈴木 弘文	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	地域住民
松本 康二	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	地域住民
西川 紀子	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	保護者
大野 恵	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	保護者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 本校ホームページ https://www.artisticb.ac.jp/ へアクセスして学校情報公開のバナーより閲覧可能		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
① https://www.artisticb.ac.jp/
② HP「資料請求」ボタンより申請いただき、無料にて配布